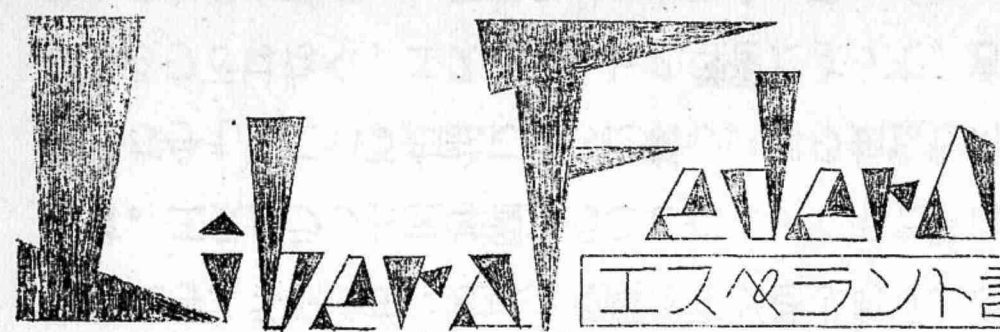




Speciala numero

特別号

エスペラントについて
Esperanto

エスペラント語版『自由連合』にほんご ばん n-no. 1.

1972年3月21日発行

ホ1号編集

手塚登士雄 東京・練馬区 東大泉376

「自由連合」は日本語でかかっているかぎり「日本」というさまざまな枠を打ち破ることはできません。"Libera Federo" は「日本」という枠を無視して（少なくとも言葉の面で）、「世界」という単位の中で、自由連合を実現しようとするものです。世界の隅々にはそれぞれの隅の「札幌」や「三里塚」や「沖縄」があります。また、「豊かな隅」「貧しい隅」との隔たりは私たちの活動にとって無視できない問題となっています。"Libera Federo" は日本語などからのほんやくだけをのせるのではなく、さまざまな人間が共通の基礎の上に立って意見を交換し、共同で活動を行う場を提供しようとするものです。ところで "Libera Federo" はエスペラント語のみによる世界を実現しようとしているわけですが、望むと望まないにかかわらず日本語を母言語としている人々には、エスペラントの世界に入るには、越えなければならないいくつかの壁があると思います。私たちは、言語（特にエスペラント）について、またエスペラントの学習方法などについてとりあげ、多くの人たちといっしょに考えていきたいと思っています。

☆ 世界語の要因

「世界は一つだ」と多くの人々がさまざまな理由から主張しています。実際、科学や産業の発達の世界を一つのものに結びつけました。しかし、電車や自動車はこの隅にも走っているにもかかわらず、隅によって異なった名前と呼ばれています。この隅からも紙でできた本や雑誌が発行されていますが、異なった言葉でなされています。隅际的な、や人間の権利や環境の問題など、全世界共通の事柄として考えずに、何事も取り運ぶことができません。つまり、私たちの生活はすでに世界生活となっており、他の隅の人々は、私たちにとって、他人でもただの友だちでもなく、まったく生活共同体の中の兄弟になっています。しかし、その人間の言葉の方面ではずっと立ちおくれて、他の民族語で隅际的に向に合わせているのが現状です。多くの人々が外国語の必要性を感じ、ばく大なお金とエネルギーを使って外国語を習得しようとしています。その根源にあるほんとうに必要なものは、全世界の人々に共通な言葉なのです。

☆ エスペラントとは何か？

エスペラントは "人工世界共通語" です。

世界のすべての言語は意図するしないにかかわらず、人間によって生産されているものです。（言語人工思想）したがって、民族語は「無意図的な人工語」であるのに

対して、エスペラントは「意図的な人工語」であると言えます。しかし、意図的な人工語というのは、いままで存在している諸民族の言語を全然無視したり、またはそれに対して、だれか何人かによって考え、作り出した言語の意味ではありません。それは、人間が自己の尊厳と力とに目ざめて、人間の言葉を一層自覚し、意図して、民族語のうちから、世界共通語として必要な法則を汲みとり、共通的要素を取りあげ、不必要な因習的要素を取り去り、整理して仕上げたものです。

エスペラントはあらゆる意味で共通語としての性格を持っています。それは、諸民族の隅境の壁を破って、共同の幸福と利益のために使われる言葉として共通語であり、日常語と文化語とのあいだのみぞをうめ、日常生活に文化をしみこませる日常文化語の意味でも共通語であり、古い習慣や片寄った傾向のせまい範囲の理解に制約されるなまりに対して、人類文化の到達した理性や情操や意志の水準を示す標準語の意味でも共通語であり、特別な立場の人たちだけの便宜をまもるものでなく、大衆の利益のための大衆語の意味でも共通語であり、特殊な暗号や符ちょう、隠語、文章語のようなかざられた用途のものでなく、談話、通信、読書、歌唱、討論など、生活のあらゆる方面につかわれる完全な生活言語の意味でも共通語であり、教育や学問や芸術や倫理の基盤となる人間の感情や思考を基本的にととのえる人間形成語の意味か

らも共通語なのです。

☆ 口語, 外口語, 世界語

口語は私たち日常民族生活の中で使っている言葉です。その使用範囲はその言語使用民族の生活範囲です。世界語は全世界を使用範囲としています。世界語を使うために特別な能力が要求されるわけではありません。口語によって育てられた力が、より自覚され、意識されて、世界語の運用に用いられるわけです。外口語は、ある民族の言語を他の民族のものが学び使用する場合の名称です。それは私たちにとって、いわば外からの言語、上からの言語です。英語はあくまでも英語を話す民族のものであり、他民族はこの言語に平等自由な自主権をもつことはできません。世界語は、なによりも無民族語であって、外口語の一種ではなく、内からの言語、下からの言語であり、民族性よりも人間性をより強く自覚した人々の言語です。民族語を学ぶ場合、その民族の文化を受動的に享受するという性格が強いのにに対して、世界語の場合、自分の思想をそれによって表現し、能動的に人類の発展させるという面が重要となります。

☆ ザメンホフと 에스페란토

この世界共通語 에스페란토の発展に最も大きな役割を果たしたのは、その言語の提唱者 ザメンホフです。

エス페란トは、1887年にポーランドの医師ラザロ・ルドヴィーコ・ザメンホフ博士によって発表された方式を基本として発展したものです。ザメンホフは少年のころから言語に強い関心をもっており、世界共通語に必要な条件を深く認識していました。共通語の条件は、ある民族の言語でなく中立な人工語であること、しかし現在ある民族語を無視してはならないこと、学習がやさしくてしかも表現が豊かなこと、それ自身他の言語から独立した「生命」を持っていなければならないこと、などです。

☆ 에스페란토の学習の意義

エス페란トを考えると、世界の人々との連帯という外面的な事だけでなく、エス페란トがその使用者や学習に与える内面的な意味を理解する必要があると思います。エス페란トを学習することによって私たちは、自分が今もっている知識にさらに新しい別の知識を付け加えるのではなく、エス페란トの学習によって、自分たちの知識を整理し、思想の核心を形造っていくという

ことが重要な点です。言語は人間の文化や諸科学、また個人の思想の扇の要(カナメ)にあたるものです。言語自体にも扇の骨とカナメにあたる要素があります。ザメンホフが発表した「エス페란トの基礎」はエス페란トのカナメにあたるものです。世界文化、世界精神はその扇のカナメであるエス페란トのしっかりした土台の上のみ生長することができると思います。

☆ 神もなく 主人もなく

「各人による各人の統治」「自由連合」の思想は決して抽象的な概念ではなく、具体的な活動として実現されなければならず、またそれは民族の枠を超えて「全地球」への視座から実現されなければならないと思います。

「各人による各人の統治」のまず最初の具体的な現れは自分の「呼吸」(spiro)と「手」(mano)の「主体」(主人)となることでなければなりません。つまり自分の言語活動と個人的活動の主体となることです。その活動をつうじ、自分の能力と役割をはっきり認識することによって、他との連合の契機をみいだすことができると思います。

現在の教育制度の中で、日本語や外口語など、本来の「語学」教育の意義がゆがめられています。エス페란トを学ぶことによって、「語学」の核心をつかむ必要があります。

総合的学問としてのエス페란ト「語学」の確立を。

▶現在、エス페란トを用いて活動している団体、エスペランティストがその中で活動している団体は次のようなものです。

- ・S.A.T. (全世界無民族性協会)
- ・世界市民運動
- ・戦争抵抗者インタナショナル
- ・アムネスティ・インタナショナル
- ・国際反ファシズム連盟 など、

今後、これらの団体の活動の紹介やザメンホフの思想、エス페란トの創造・文法などについて書いていきたいと思っています。

▶ "Libera Federo" にほんごばんを読んで、批判を送って下さい。定価無料。20円切手を数枚送って下さい。

▶ "Libera Federo" (エス文) の発行の協力者を求めています。購読料は1部30円。隔月刊の予定。

▶各地の活動について知らせて下さい。